

令和5年度第4回稲沢市民病院経営強化プラン検討委員会 会議録概要

【日 時】令和5年9月22日（金） 午後2時00分～2時50分

【場 所】稲沢市民病院2階 講堂

【出席者】渡邊 有三委員 春日井市民病院統括顧問
笠原 純一委員 稲沢市医師会長
栗木 雅洋委員 愛知県清須保健所長
家田 尚彦委員 稲沢市老人クラブ連合会長
牛嶋 みゆき委員 稲沢市連合婦人会長
日山 正裕委員 公募委員
浅野 隆夫委員 稲沢市総合政策部長
久留宮 庸和委員 稲沢市総務部長
山口 竜三委員 稲沢市民病院長
住田 千鶴子委員 稲沢市民病院看護局長
【事務局】加藤 健司 稲沢市民病院事業管理者
砂川 良一 稲沢市民病院事務局管理課長
加藤 健児 稲沢市民病院事務局管理課主幹
櫛田 直柔 稲沢市民病院事務局管理課主査
加藤 政樹 稲沢市民病院事務局管理課主任

1. 議題

(1) 第3回委員会における意見に対する回答について

(事務局)

「稲沢市民病院経営強化プラン（未定稿）」により説明。

前回会議における委員からの意見に対する回答。

質疑等

(委員)

コロナの影響により、経常収支も変わる可能性があるのか？それにより、プランも改定する必要が出てくるのか？

(事務局)

令和5年度収支計画はコロナ関連収支を加味し、9月までの実績をもとに再調整する予定である。病床確保補助金は9月までの制度であり、10月以降は国で検討中だが、基本的には交付はないと考えている。市からの繰入については、コロナ禍以前は10～12億円ほどいただいていたが、令和2～4年度は市の負担を軽減するために病床確保補助金

を充当したものである。今年度についても病床確保補助金があるので、市からの繰入金について協議・検討していきたい。

(委員)

経営強化プランを策定するのに現金保有残高が減少していくというのはもう少し検討の余地があるとも考えられる。

(2) 稲沢市民病院経営強化プラン(案)について

(事務局)

これまでの会議での意見を踏まえ修正してきた現段階のプランについて改めて意見をいただきたい。

(委員)

例えば地域医療連携構想、地域包括ケアシステムという言葉は理解しにくい。一般市民に情報発信する方法を検討した方が良いのではないか。

(事務局)

定期発行している病院ニュースやホームページを有効活用していきたい。

(委員)

病院は普段は興味が示されにくいところである。ホームページも病気になって初めて病院に興味を示すわけで、元気な人であれば病院のホームページを見る必要はない。病気の当事者になって初めて病院というところに興味を示すという特殊な場所のため、情報発信は本当に課題である。皆様に広く知ってもらい、元気なうちに知ってもらいということは、なかなか難しいことではあるが考えていかなければならない。

(委員)

事務局と看護局の熱意はよく伝わるが、病院の中にはそのほかにも薬剤局などの部署があるが、その辺りの職員も同じように経営改善をとることが見えてこない。

例えば院外処方をして100%にして、薬剤師に院内での処方をやめさせて、その代わりに入院中の患者さんや外来で化学療法をやっている患者に適切な指導をして指導料を取るなど、人件費はかけずに収入を得るということを考える。

院外処方を100%にすることは、地域住民にしてみれば「何故?」と言われるかもしれないが、病院の薬剤師を適正に有効に利用するためだということを考える。一生懸命考えないとこれから先は生き残っていけないので、とにかく改善を図ることを少なくして、取れるものは取るということが大事である。

院内の部局に何か目標を立てさせ、それを達成するように努めさせれば、稼働が増え、収入が増える。そういうことを実績として出さないといけないと思う。

(事務局)

これまでに4回の会議で審議いただいた。今後、最終調整し、県のヒアリング等を受け、最終的に固まったプランを皆さんにお見せすることについてはどのようにするのが良いか。また集まっていたいただく機会を設けた方が良いか。

(委員)

書面だけでも良い。

(管理者)

完成後はこのプランを点検・評価していただくという評価委員に関しても、この検討委員の皆様をお願いしたいと考えている。引き続きよろしくをお願いしたい。